

作業学習支援案 木工班

1 単元名「 ○○○フェスタを成功させよう

～質の高い木工製品を作って売ろう～ 」

2 単元について

○作業の概要

木工班では、おもに杉板の荒材を材料にして製品作りをしている。板材を2枚、3枚重ね釘で接合して角材を作りそれを花台や腰掛けの横板や脚に用いたり、2枚の板材の間に合板をはさみ接着剤（木工ボンド）で接合したものを車輪に加工したりしている。このように板材から新たに別の材料を作り出すことで製品の種類は増え、より精度の高い製品作りに役だっている。板材を使った代表的な製品としては、檜のしゃもじがある。生徒は、年度はじめから自分でその日の作業（活動内容）を選び（自己選択）、決定（自己決定）し活動している。そうすることで、生徒は集中力を増し怪我はほとんどなく質の高い製品作りへとつながっている。

生徒が、木材加工の全作業工程を安全に一人で学習できるように、生徒一人一人の特性や発達段階に対応した補助具の準備に努めている。生徒は木材での製品作りを通して、技能の向上だけではなく、仲間と2人での協力体験や1つの製品をみんなで分担して製作することで、仲間意識を強くもつようになってきている。更に、終了報告や困った時に尋ねることができるようになってきたり、製品を完成させ達成感を味わうことで生徒の中には、少しずつではあるが自分に自信がもてるようになってきている者もいる。「○○○フェスタ」に向けて販売流通の仕組みを学習し、当日は、自分たちが作った製品が売れるというこの学習で一番の喜びであろう販売体験をする。また、販売体験については、可能な限り「○○○フェスタ」以外でも行いたいと考えている。

○単元設定の理由

生徒は、自分たちで作った物が売れることでこの単元での最大の喜びと達成感を味わい、そこから自信も生まれると思われる。よって、この単元では売れる製品作りということ強く意識して製品の選定を行った。製品を売るのは、「○○○フェスタ」がメインになるため、売れる製品の選定に入った。本校は、住宅地の中にありガーデニングに関心が高い地域である。このことと生徒が作りたい物を参考に今年も花台と腰掛けを中心にして製作することに決定した。昨年もこの2つの製品は、作っているため今年は昨年以上に質の高い製品にしないと売れない可能性がある。そこで種類を多くすることと丈夫さを増すことの2点をこの製品作りの目標にした。種類を増やすためには大きさと塗料の種類を多くし、丈夫さを増すためには1枚だった横板を2枚と3枚にすることで補うことにした。これらの目標を達成するためには全体的に更に作業の精度を上げることが要求されるため、生徒が安全に一人で作業ができる補助具をすべての作業工程で準備する必要がある。切る・削る・磨く・穴あけ・組立（釘打ち）・塗装のほとんどの作業工程を補助具を使うことで一人でできる生徒が多い。材料は杉板の荒材をおもに使用している。理由としては、木目がはっきりしており繊維方向（強さの方向）や赤い部分（心材）と白い部分（辺材）がわかりやすいため、はじめて木材加工をする生徒も比較的簡単に作業しやすい利点がある。それに安価で手に入るということも魅力である。

○班の構成

1年生○人、2年生○人、3年生○人の生徒○○人と支援者○人の合計○○人での構成である。生徒○○人のうち3年目が○人、2年目が○人で、昨年の後期実習時に2年生○人が経験している。○人は、機械に恐怖心をもっているため塗装を選ぶことが多かったが、マイターソーで切ることができるようになってきている。他の生徒は作

業の速さの違いはややあるが、補助具を使って一人でほとんどの機械を使うことができる。

3 単元における目標

- 売れる製品作りを意識しながら、より精度の高い部品をめざし質の高い製品作りを行うことで、完成の達成感を味わい自分に自信をもつことができる。
- 「〇〇〇フェスタ」を通して販売流通について体験し、製品が売れる喜びを感じることができる。
- 生徒が自分でその日の作業を自己選択・自己決定し、時間いっぱい安全に集中して作業することができる。
- 技能を高めると同時にコミュニケーションの必要性を知り、他の人と関わろうとすることができる。
- 終了報告や分からない時は、尋ねることができる。
- 仲間と協力して楽しく活動することができる。

4 単元における「子どもが自ら分かり動ける支援」を実践するための状況作りについて

(1) 「子どもが自ら分かり動ける」活動の進め方

- ①見通しをもてるように
 - ・製作する「花台」、「腰掛け」の完成品を事前に見せる。
 - ・製品が完成するまでの作業工程表を掲示する。
- ②分かって動けるように
 - ・本時の作業内容と作業割りをはじめに確認する。
 - ・ことばでの説明や支援はできる限り少なくし、分かりやすく短くまとめて話す。
 - ・約束カード、指示カードなどを工夫し、見やすく分かりやすいものにする。
 - ・生徒数の1.5倍の作業（作業内容）を準備し、その中から生徒が、作業を自己選択・自己決定する。
 - ・各種の機械には、ガイドを取り付け分かりやすくする。
- ③意欲を持って主体的に動けるように
 - ・すべての作業工程に生徒だけで使用できる、安全で使いやすい補助具を準備する。
 - ・作業室に来たら自分の名札を赤から黒に裏返し、気持ちを作業に切り替える。
 - ・生徒の特性に配慮し、苦手なことを先に克服するよりも得意なこと興味・関心のあることを更に伸ばすことを第一に考え、達成感を味わい自信をもてるようにする。
 - ・安全と目標達成に支障がなければ、生徒が活動しやすい仕方・方法を尊重する。
(支援者の概念で無理に変えさせない。例えば、釘打ちであれば金づちの重さや大きさを変えるだけで生徒の仕方・方法で十分にできることが多い。)
 - ・終了報告などのコミュニケーションの機会を増やす。
 - ・達成感を味わうことができるように毎回の作業量は少なめに設定する。更に、時間よりも量で設定することでより実感できるようにする。
 - ・作業ノートを書くことで自己評価し、次時の目標を決定する。
- ④一人一人に、「自ら分かって動ける」作業があるように
 - ・同じ活動を繰り返して行う活動と、部品加工から組立・塗装まで、一つの製品を完成まで一人で行う活動を設定する。
 - ・生徒が自信のある作業を継続して行うようにする。

(2) 「子どもが自ら分かり動ける」を支える場の設定と道具や補助具の工夫

①分かりやすい場の設定

- ・作業台の高さを生徒の体に合わせる。
- ・作業の動線を安全で動きやすいものにし、作業（工程）ごとに作業台を設定する。
- ・材料を次の工程へスムーズに流しやすくする。
- ・生徒たちが一体感をもって活動できるように、できるだけ中央を向き合うように作業台を配置する。
- ・完成した製品を作業室に展示し、作業の工程表などを掲示する。
- ・材料や道具を置く場所を決め、整理整頓をしておくようにする。
- ・卓上かんな盤の木屑は、補助具の工夫によって散乱させずに集塵機で自動的に処理する。
- ・機械のスイッチは、「入・切」がしやすいようにし、安全面から場合によっては、二重スイッチにする。

②一人でも「分かる」「できる」ように道具や補助具を準備

- ・生徒が、一人で分かり活動できるように全作業工程に安全で使いやすい補助具を設置する。
- ・一つのことにしか使えない補助具ではなく、応用（互換性）ができるように工夫することで、生徒が使い慣れた補助具を安心して使えるようにする。
- ・誰が使っても同じ物ができ、安全で使用法が簡単な補助具にする。
- ・材料を入れる箱（ケース）の大きさは、材料の長さを考えて準備する。

5 単元計画

期 間	主 な 活 動				備 考
	「花台」	「腰掛け」	「ワゴンボックス」	「しゃもじ」	
11/12 ～15	脚作り, 組立	脚作り, 組立	車輪作り	枠切り	
19～22	釘打ち	釘打ち	枠切り 削り, 塗装	枠切り 削り	
26～29	釘打ち	釘打ち, 塗装	枠切り 削り, 塗装	削り, 磨き	
12/3 ～6 (本時)	釘打ち, 塗装	釘打ち, 塗装	組立 釘打ち, 塗装	削り, 磨き	・塗装は仕上げ塗り
10～13	釘打ち, 塗装	釘打ち, 塗装	釘打ち, 塗装	ロゴ焼き印 値札付け	・焼き印の失敗はやり直す
17～20	釘打ち, 塗装	釘打ち, 塗装	釘打ち, 塗装	ロゴ焼き印 ラッピング	
1/8 ～10	釘打ち, 塗装	釘打ち, 塗装	釘打ち, 塗装	「小物」 メモスタンド	・小物はマグネットなどもある
15～17	ロゴ焼き印	ロゴ焼き印	ロゴ焼き印	「小物」	
21～24	ロゴ焼き印 値付け	ロゴ焼き印 値付け	ロゴ焼き印 値付け	「小物」	
28～31	値札付け	値札付け	値札付け	「小物」	

2/4 ～6	「〇〇〇フェスタ」の準備（価格付け、掲示物作成、仕事分担決め）	
7	「〇〇〇フェスタ」	

6 個別の支援計画

名前	これまでの様子と本単元の個別目標	本時の個別の目標	達成への支援や手立て
Aさん	<ul style="list-style-type: none"> ・ベルトサンダーでの面取りと電動サンダーでの磨きの作業を中心に行っている。電動ドリルでの穴あけも一人でできつつある。 ●作業の工程を理解し、集中して時間いっぱい取り組むことができる。 ●わからない時は筆談で尋ねることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●時間いっぱい集中して作業ができる。 ●疲れた時や分からないことは筆談で伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすく説明し、簡単な作業から進め自信をもてるようにする。 学—1 ・補助具を設定する運—1 ・筆談がしやすい雰囲気をつくる。 心—4
Bさん	<ul style="list-style-type: none"> ・電動ドリルでの穴あけやげんの中の釘打ちを中心に活動している。他の作業も時間いっぱい活動することができる。 ●製品の精度を意識しながら責任をもって作業することができる。 ●場に応じた言動ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●作業の自己選択、自己決定及び正確に作業ができる。 ●わからないことや終わった時は自分から適切なことばで連絡することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・使用するすべての機械にはひとりのできるための補助具を準備する。 運—1 ・挨拶などコミュニケーションを重視した場面を設定する。 心—7
Cさん	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の作品作りを中心に行いながら仲間とも製品作りができるようになってきている。糸のこや電動サンダーなどの機械を使つての作業も一人でできる。 ●仲間と一緒に作業をすることができる。 ●安全に留意して作業することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●安全に留意しながら10分以上仲間と作業することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業の見通しをもてるように本人と話合つて計画的に作業日程を組む。 心—3 ・自分の作品作りから始め、製品作りに移行できるように作業量を調整する。 心—3
Dさん	<ul style="list-style-type: none"> ・マイターソーは特に材料の固定からすべて一人で作業することができる。 ・自己選択、自己決定ができないときは作業のスピードと精度がおちることが多い。 ●作業の自己選択、自己決定ができ、時間いっぱい集中して取り組むことができる。 ●自分の気持ちをわかりやすく相手にはっきり話すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●作業の自己選択、自己決定ができる。 ●終了報告やわからないことは尋ねることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業工程をよく説明し、見通しがもてるようにする。 学—1 ・目標枚数を設定する。 心—3 ・報告しないといけないような場を設定する。 学—9 ・補助具を設定する運—1
Eさん	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のペースで作業することで、仲間と一緒に活動できることが多くなってきている。 ・マイターソーや釘打ちなどの技能は高いが、材料の固定などは人任せにすることが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ●自分が選択した作業で15分は活動することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リラックスできる場所を確保しておく。 心—7 ・見通しがもてるように時間ではなく量で作業を終了

	<ul style="list-style-type: none"> ●仲間と落ち着いて作業をすることができる。 ●安全に一人でいろいろな作業ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●安全を意識しながら作業をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> する。 心—3 ・補助具を設定する 運—1
Fさん	※抽出生としているので、「7. Fさんの目標と支援の手立て」をご覧ください。		
Gさん	<ul style="list-style-type: none"> ・指示待ちの傾向で作業スピードもゆっくりであるが丁寧に仕上げる。 ・作業の手順を理解することでマイターソーなどは一人でできている。 ・仲間と協力して活動することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●スムーズに作業に取りかかり、安全に気を付けて活動することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に作業を見せ、指示カードなどでも更に確認する。 学—1 ・補助具を設定する 運—1
	<ul style="list-style-type: none"> ●作業の手順を理解し、一人でできる作業を増やす。 		
Hさん	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で決めた目標数を達成しようとして、作業が少し雑になることがある。 ・作業の技能が高いが、機械に少し恐怖心をもっているため、マイターソーを一人でやる人が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ●自分で目標を決め、安全な活動と質の高い製品作りができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標は時間よりも量で決め、作業が雑にならないように量は少なめに設定する。 心—3 ・機械は正しく使うと安全であることを模範することで確認する。 学—1 ・場所を離れることを連絡してきたら理由を確認して許可する。 学—9
	<ul style="list-style-type: none"> ●自分で目標を決め、安全な活動と品質の高い製品作りができる。 ●機械の恐怖心をなくし、補助具を使って一人で活動ができる。 ●場所を離れる時には連絡することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●作業場所を離れる時には、連絡することができる。 	
Iさん	<ul style="list-style-type: none"> ・道具や機械に恐怖心があり、活動は塗装を選ぶことがほとんどであったが、マイターソーは、少しずつ取り組むようになってきている。 ・塗装は、少ない塗料できれいにむらなく塗ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●マイターソーで板材を15分以上切ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・塗装以外の作業も安全で楽しいことを模範して見せ確認する。ただ、本人の気持ちを尊重する。 心—1 ・指示カードで示す。 学—1 ・補助具を設定する 運—1
	<ul style="list-style-type: none"> ●塗装以外の作業を自己選択し、できる作業を増やす。 		
Jさん	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲があり、自分で選んだ作業は最後まで集中して活動することができる。 ・見学者があると気持ちが高揚し、自分の活動がおろそかになるときがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●不必要な話はしないで集中して活動できる。 ●正確かつ丁寧に作業することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を一緒に確認する。 心—3 ・補助具を設定する 運—1 ・製品の完成品を示し、でき上がりを意識しながら、作業ができるようにする。 学—3
	<ul style="list-style-type: none"> ●落ち着いて場に応じた対応ができる。 ●製品の精度を意識して作業に取り組むことができる。 		
Kさん	<ul style="list-style-type: none"> ・作業の内容は理解できており、作業を選ぶこともできるようになってきている。 ・仲間と協力して活動することができる。 ・塗装は特に丁寧に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●自分がやりたい作業を選び、一人で安全に活動することができる。 ●はじめと終わりの挨拶のと 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業の選択肢を多く準備する。 運—3 ・補助具を設定する 運—1 ・事前に声かけをする。

	<ul style="list-style-type: none"> ●安全に一人でできる作業を増やす。 ●挨拶と終了報告ができる。 	きに頭を下げるができる。	学—2
L さ ん	<ul style="list-style-type: none"> ・自分でやりたい作業を選ぶことで、自分の作業に対して責任感が少し出てきている。 ・作業の途中で別の作業に変わろうとすることもほとんどなくなってきた。 <ul style="list-style-type: none"> ●安全に気を付けて活動し、質の高い製品を作ることができる。 ●場に合った声の大きさを話することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●落ち着いて一人で安全に作業ができる。 ●終了報告や分からないときは、声の大きさに留意して尋ねることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標の設定を時間よりも量で本人と確認する。 <ul style="list-style-type: none"> 心—3 運—1 学—1
M さ ん	<ul style="list-style-type: none"> ・作業の手順は、ほとんど一回の説明で理解し技能も高いが、作業時間が長くなると少し雑になることがある。 ・仲間と協力しての活動よりも一人での作業を好む傾向にある。 <ul style="list-style-type: none"> ●はじめと終わりの挨拶ができる。 ●作業のムラをなくし、製品の精度を意識して活動することができる。 ●時間を守ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●はじめと終わりの挨拶ができる。 ●支援者の助言を作業に生かすことができる。 ●売れる製品という意識をもって作業することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶の仕方がよくないときは、やり直すように促す。 <ul style="list-style-type: none"> 学—2 心—2 運—1

7 Fさん（抽出生徒）の目標と支援の手立て

(1) これまでの様子と単元の個別の目標

<p>○これまでの様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しんで作業にとりくんでいるが、集中力が続かない時があり、作業が雑になることがある。 ・マイターソー、ベルトサンダーや釘打ちなどは、道具にすぐ慣れ一人でできている。特に釘打ちには自信をもって取り組んでいる。 <p>○本単元の個別目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分がする作業を自己選択・自己決定し、集中して作業時間いっぱい活動することができる。 ・補助具を使った一人で安全にできる作業を増やすことができる。 ・売れる製品作りを意識して作業を行い、精度の高い部品を作り質の高い製品を完成させることができる。 ・はじめと終わりの挨拶がきちんとでき「終わりました。」の終了報告や困った時は尋ねることができる。 ・販売流通の仕組みを知り、仲間と楽しく「○○○フェスタ」などを通して販売体験をすることができる。
--

(2) Fさんを支える状況作り（「自ら分かり動ける」支援のあり方）

<p>(主体的に活動するために)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製品が完成するまでの作業工程表や完成品を示し、見通しをもって活動できるようにする。 ・売れる製品を作るということを意識しながら作業に取り組み、正確で質の高い製品作りをめざし興味・関心を高めるために完成品を示す。 ・すべての作業工程に本人だけで使用できる、安全で使いやすい補助具を準備する。 ・作業室に来たら自分の名札を赤から黒に裏返し、気持ちを作業に切り替える。 ・本人の特性に配慮し、苦手なことを先に克服するよりも得意なこと興味・関心のあることを更に伸ばすことを第一に考え、成就感を味わい自信をもてるようにする。

- ・安全と目標達成に支障がなければ、本人が活動しやすい仕方・方法を尊重する。
- ・終了報告などのコミュニケーションの機会を増やす。
- ・達成感を味わうことができるように毎回の作業量は少なめに設定する。更に、時間よりも量で設定することでより実感できるようにする。
- ・その日の作業を自己評価し発表することで、次時への意欲を高める。

(主体性を支える場の設定や道具や補助具などの工夫)

- ・作業台の高さを本人の体に合わせる。
- ・作業の動線を安全で動きやすいものにし、作業（工程）ごとに作業台を設定する。
- ・完成した製品を作業室に展示し、作業の工程表なども掲示する。
- ・材料や道具を置く場所を決め、整理整頓をしておくようにする。
- ・卓上かんな盤の木屑は、補助具の工夫によって散乱させずに集塵機で自動的に処理する。
- ・機械のスイッチは、「入・切」がしやすいようにし、安全面から場合によっては、二重スイッチにする。
- ・一人で分かり活動できるように全作業工程に安全で使いやすい補助具を設置する。
- ・一つのことにしか使えない補助具ではなく、応用（互換性）ができるように工夫することで、本人が使い慣れた補助具を安心して使えるようにする。
- ・安全で使用法が簡単な補助具にする。
- ・材料を入れる箱（ケース）の大きさは、材料の長さを考えて準備する。
- ・釘打ち ; 電動ドリルで釘打ちをする下穴を開けておく。
- ・マイターソー ; 決められた長さの所で、材料を切断できる場所に補助具をセットしておく。
- ・電動ドリル ; 材料を正しくセットすれば、所定の位置に下穴が開けられるように補助具をセットしておく。
- ・ベルトサンダー ; 回転するベルトの真正面に、材料を傾ける高さのラインボードを見やすくセットし、削り面の角度を合わせる目安にする。
- ・作業体制について ; 一人でした方が集中しやすい作業は一人に任せ、時間的に長くなり、集中力が続かない状況になる前に、二人での協力体制で取り組む作業も準備をしておく。

8 本時の計画

(1) 目標

- ・安全に留意して製品部品の精度を意識して楽しく活動することができる。
- ・できる限り自己選択・自己決定をし、集中して作業時間いっぱいまで活動することができる。
- ・自分の今日の作業をやり終えることで達成感を味わい、自信をもつことができる。
- ・生徒相互でコミュニケーションをとりながら作業に取り組むことができる。

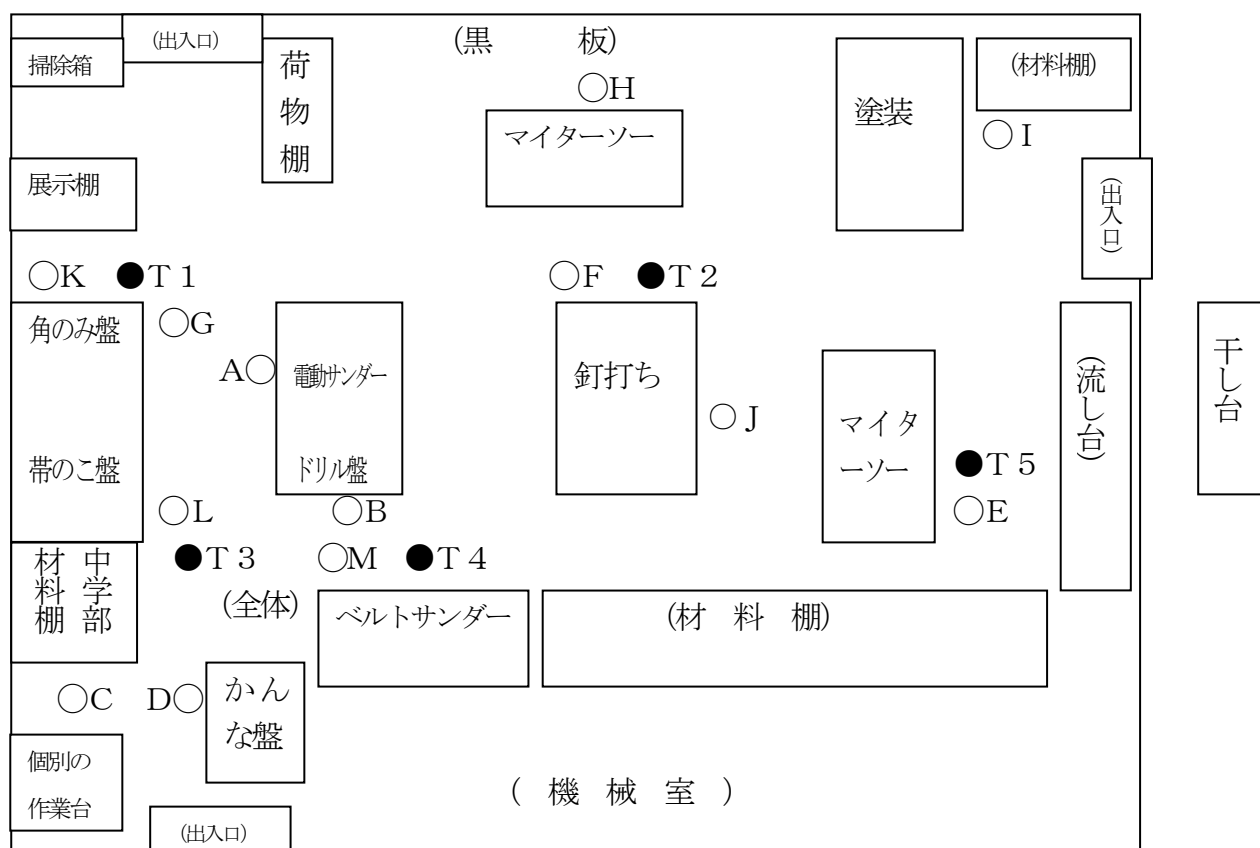
(2) 展開

配時	○生徒の活動 ■Fさんの目標	◆Fさんの支援上の留意点	◇全体の支援上の留意点
5	○はじめの挨拶をする。 ■大きな声で挨拶ができる。	◆声を出して挨拶をするように促す。 学 —2	◇日直が前に出るように促す。 学 —2
	○今日の自分の作業を知る。 ■自分で本時の作業を決めることができる。 (自己選択、自己決定)	◆名札を置けてないときは促す。 学 —2	◇希望する作業の所に自分の名札を事前に置いておく。 (生徒が活動内容を自分でできるだけ自己選択、自己決定)




<p>35</p>	<p style="text-align: center;">・名札</p> <p>○作業を始める。</p> <p>■自分で決めた量の作業を最後まで であることができる。</p> <p style="text-align: center;">・すべての作業に補助具</p> <p><切る></p> <p>・それぞれの長さに切る。</p> <p>■材料の固定から切ってケースに 入れるまで一人でできる。</p> <p style="text-align: center;">・マイターソー ・帯のご盤</p> <p><削る></p> <p>・かんなを板材の両面にかける。</p> <p>■材料の裏表を間違えないで一枚 ずつ入れることができる。</p> <p style="text-align: center;">・卓上かんな盤 ・集塵機</p> <p>・ベルトサンダーで木口の面取り をする。</p> <p style="text-align: center;">・ベルトサンダー ・皮手袋 ・マスク ・ゴーグル</p> <p><磨く></p> <p>・全ての面の磨きをする。</p> <p>■材料の全面を磨くことができる。</p> <p style="text-align: center;">・電動サンダー</p> <p><穴あけ></p> <p>・釘の下穴をあける。</p> <p>・止めほぞの穴をあける。</p>	<p>◆どの作業時でも少なめに材料を 設定する。時間にして15分以上は 取り組めるようにする。 (集中力の維持と支援者とのコミ ュニケーションの機会を設定する)</p> <p style="text-align: right;">心—3</p> <p>◆材料の固定の具合を確認する。</p> <p style="text-align: right;">運—3</p> <p>◆補助具にきちんと材料を合わせ ていることを確認する。</p> <p style="text-align: right;">運—3</p> <p>◆刃の高さを随時支援者が合わせ る。</p> <p style="text-align: right;">運—3</p> <p>◆削る面を上にして入れるように 確認する。(木表と木裏を削る。)</p> <p style="text-align: right;">学—3</p> <p>◆材料は一枚ずつ入れるように促 す。</p> <p style="text-align: right;">学—2</p> <p>◆削り過ぎないように見本を準備 し、削る所に赤チョークで印をつけ る。</p> <p style="text-align: right;">学—1</p> <p>◆必ず、ゴーグル、皮手袋とマスク を付けているか確認する。</p> <p style="text-align: right;">運—3</p> <p>◆一点を集中的に磨くのではなく、 材料の全体を磨くように示す。</p> <p style="text-align: right;">学—3</p> <p>◆材料に釘の下穴をあける補助具 を準備する。</p> <p style="text-align: right;">運—1</p> <p>◆材料を補助具からははずす時は、必</p>	<p>する。)</p> <p style="text-align: right;">心—1</p> <p>◇生徒の体調に合わせ作業を 決定する。</p> <p style="text-align: right;">心—3</p> <p>◇ゆとりをもって活動できる ように配慮する。</p> <p style="text-align: right;">心—3</p> <p>◇すべての作業に補助具を準備 し設定する。</p> <p style="text-align: right;">運—1</p> <p>◇材料はしっかり固定する。</p> <p style="text-align: right;">運—3</p> <p>◇スイッチの確認をする。 (安全対策として二重スイッ チにする。)</p> <p style="text-align: right;">運—1</p> <p>◇生徒は、刃の高さ調節のハ ンドルには触れない。</p> <p>◇卓上かんな盤のときには軍 手は使用しない。</p> <p>◇削る面を間違えないように カードで示す。</p> <p style="text-align: right;">学—1</p> <p>◇できるだけ薄く削るように 模範を示す。</p> <p style="text-align: right;">学—3</p> <p>◇集塵機で木屑は吸い取る。</p> <p style="text-align: right;">運—3</p> <p>◇できればハンカチを口にあ てマスクをするように促す。</p> <p style="text-align: right;">学—2</p> <p>◇生徒によっては、途中で作 業を変え、休憩が必要な生徒 には随時入れる。</p> <p style="text-align: right;">心—3</p> <p>◇換気扇を回すなどして換気 に気をつける。</p> <p style="text-align: right;">運—3</p> <p>◇見本を準備してどれくらい 磨けばいいかを生徒が確認で きるようにする。</p> <p style="text-align: right;">学—3</p> <p>◇材料が補助具に入らない時</p>
-----------	---	---	---

	<p>■一人で安全に操作して、活動することができる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・電動ドリル ・卓上角のみ盤 ・皮手袋 </div> <p><塗装></p> <ul style="list-style-type: none"> ・むらができないように塗る。 <p>■むらなく塗ることができる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・塗料 ・はけ、皿 ・塗装用エプロン ・軍手 </div> <p><組立></p> <ul style="list-style-type: none"> ・木工ボンドをつけ、釘打ちをする。 <p>■製品にキズをできるだけつけないで釘打ちをすることができる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・げんのう ・木工ボンド ・釘 </div>	<p>ずスイッチを切るように確認する。 [学]—1</p> <p>◆塗料は少なめに皿に入れる。 [運]—3</p> <p>◆はけは、一方方向（左から右）に塗るようにして見せる。 [学]—3</p> <p>◆木口を塗る時は、はけでたくようにして塗るのをして見せる。 [学]—3</p> <p>◆げんのう（金づち）を持たない手には、軍手をつけるように声をかける。 [学]—2</p> <p>◆げんのうは、両面を使って打つようにして見せる。 （平面 ⇒ 曲面） [学]—3</p> <p>◆道具は決まった場所に戻すように声かけをする。 [学]—2</p> <p>◆よかったことを賞賛する。 [心]—2</p> <p>◆次時の作業が楽しみで待ち遠しいと思えるようにする。 [心]—1</p>	<p>は、別のケースに入れる。 [運]—3</p> <p>◇はけに塗料を少しずつ付けて塗るようにカードで示す。 [学]—1</p> <p>◇塗料をはけに付けすぎるとは、塗料皿を2つにし1つには塗料を入れず、余分な塗料をとれるように準備する。 [学]—6</p> <p>◇木工ボンド（接着剤）は、材料からはみ出さないように材料の中央に少なめに付けるようにカードで示す。 [学]—1</p> <p>◇げんのうは、柄の3分の2の所にテープを貼り、にぎる所を示す。 [学]—6</p> <p>◇打ち方がよくない時は、模範を示し、手首を持って一緒に打つ。 [学]—3</p> <p>◆道具は決まった場所に戻すように声かけをする。 [学]—2</p> <p>◇よかったことを賞賛する。 [心]—2</p> <p>◇日直が前になるように促す。 [学]—2</p>
5	○掃除と後片づけをする。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・使用した道具を片付け、掃除する。 <p>■自分が使った道具を片付け、掃除することができる。</p>		
4	○自己評価と感想を確認する。		
	<p>■今日の作業の感想と簡単な自己評価を発表することができる。</p>		
	○まとめと次時のことを確認する。		
1	○終わりの挨拶をする。		

9 場の設定と配置



10 本単元で使用した補助具や道具の工夫

帯のこ盤用補助具	卓上かん盤用集塵装置	回転式塗装台
		
<p>・台を押すだけで生徒が一人で安全に作業ができ、誰がしても同じように何枚でも切ることができる補助具である。</p>	<p>・卓上かん盤から出る大量のかんな屑を大型集塵機へ集めることができる補助具で、手が入らないようにも工夫している。</p>	<p>・塗装台が回転することで材料をセットしたまま塗り残しのチェックや木口と木端を簡単に塗ることができる補助具である。</p>